



生徒一人一人のよさを見極め、称賛し、夢と希望を育む学校

羽生市立南中学校

令和6年 9月30日発行

南中だより 10月号

「実力を高めよう、仲間とともに」

校長 堀越 成夫

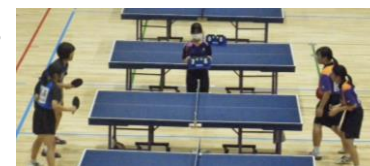
9月13日の陸上競技を皮切りに、先週9月25日～27日、北埼玉地区秋季総合体育大会（新人戦）が実施されました。3年生から1・2年生へとバトンが渡された初めての大会では、練習の成果が十分に発揮できた生徒、発揮できず、悔しい思いをした生徒もいたかと思います。「練習は裏切らない」とよく言われます。何がいけなかったのか、どうしたらよかったのかをしっかりと反省して、また前を向いて取り組んでいきましょう。初めからうまくいくことって少ないと思います。しっかり「ふりかえり」をすることが一番の上達の道だと思います。

現在、大リーグ「LA ドジャース」の大谷翔平選手が、注目を集めています。同じ大リーグの「シカゴカブス」に所属している今永昇太選手は、新聞の取材に対し、次のように述べています。「勝ったときに反省することが一番幸せなので……」反省は至らなかった点を振り返るものだから苦いはずなのに、大リーグカブス所属の左腕は、勝ったあと反省しているときが幸せだと言う。どこまでが運で、どこまでが根拠のあることなのか、曇りのない眼で考える時間だからだとすれば、「投げる哲学者」と呼ばれるのもうなずける。【対ドジャース戦後のインタビューから（朝日新聞「折々のことば」から）】一流と呼ばれる選手でも、ふりかえりをしっかりと行っています。

競技者は試合相手から多くのことを学びます。どうしたら実力がつくのだろうか、と相手のやり方を真似したり、同じように行動したりすることで実力も高められます。心身の素直さが成長のカギ、実力をつけるカギかと思います。また、相手や仲間には誠意をもって付き合うことが大切です。相手の成長が自分のことのようにうれしい、自分もあのような実力をつけたいと思って相手と接することです。そして、やることが決まったら毎日の努力を積み重ねていきましょう。そうすれば、勝っても負けても相手に敬意を払い、自分の実力を高められた人のみが味わうことのできる、その領域の高みに立てるのです。素直な

気持ちと誠意ある態度……。これが、一流と呼ばれる競技者の条件だと思います。

2学期は、一番勉強がはかどる時期でもあります。季節的にも集中しやすい時期です。特に、この時期の3年生は、実力を高めようと毎日努力していることでしょう。「受験戦争」なんて言葉が昔、流行りましたが、正確ではありません。「受験は団体戦」とよく言われます。勉強する仲間は、みんなあなたの味方です。人は楽な方へ楽な方へと流されがちですが、自分で自分を律することほど大変なことはありません。自分で何時間も継続して学習できる人は、大したものです。そうできないから、みんなで励まし合ってがんばるのが普通の学校の姿です。だから、「受験は団体戦」と言われるのです。クラスの仲間と学年の仲間と、そして同じ部活の仲間とともに実力をつけていきましょう。



日	曜日	予 定	日	曜日	予 定
1	火	衣替え	16	水	第1回学校保健委員会
2	水	登校指導日	17	木	北埼玉地区駅伝競走大会
3	木		18	金	臨時歯科健診（3年3～5組）
4	金	月例費引き落とし	19	土	
5	土		20	日	
6	日		21	月	後期時間割開始
7	月	生徒会引継ぎ式⑥	22	火	
8	火		23	水	
9	水	合唱コンクール ※弁当持参 新人体育大会代表者会議	24	木	職場体験学習（2年）
10	木		25	金	職場体験学習（2年） 進路説明会（3年）
11	金	臨時歯科健診（2年1、2組、3年1、2組） 全校集会	26	土	
12	土		27	日	
13	日		28	月	
14	月	スポーツの日	29	火	羽生市教育研究会研究発表（部活動中止）
15	火		30	水	生徒会専門委員会
			31	木	市内音楽会

自己啓発の日：3日、9日、16日、23日、31日

下校指導：16日、23日